

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和2年度 第3回佐渡市入浴施設あり方検討会
開催日時	令和2年10月26日(月) 13:30~15:35
場所	金井コミュニティセンター 1階小会議室
会議内容	1 開会 2 議事 1) 市有入浴施設の現状と課題について 2) 中間報告(案)について 3) その他 次回の検討会日程について 3 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	≪入浴施設あり方検討会委員≫ (7名) ・委員長 西川 祐一 ・委員 南島 和久、佐々木 宏史、山下 峰生、橋本 美子、小田 隆晴、鶴間 侑希 ≪市役所≫ (3名) ・事務局 市民生活課長 斉藤 昌彦 温泉施設係長 池 雅彦 温泉施設係主事 川上 一貴
会議資料	<u>別紙のとおり</u>
傍聴人の数	2名
備考	

会議の概要 (発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
西川委員長	1 開会 2 議事1) 市有入浴施設の現状と課題について 今回佐渡市から中間報告をまとめてほしいと依頼されている。事務局の説明の前に私から基本的な考え方のメモを作成したので資料を共有する。

	<p>(「中間報告取りまとめにあたっての基本的考え方(メモ)」配布)</p> <p>今までの検討会では、入浴施設がどのような経緯を辿ってきたかという点を事務局から資料で説明いただいた。その他にも佐渡市行政改革大綱という計画に基づいて入浴施設を整理した経緯がある。中間報告では、3つの無償貸付施設を契約延長するかどうか争点になる。いずれにしても皆さんと意識を合わせていきたい。</p>
西川委員長	<p>(事務局による説明)</p> <p>何か質問や意見はあるか。</p>
佐々木委員	資料 4p. で佐渡市の補助金が色々と書かれているが、その利用率及び効果が分かる資料はあるか。
池係長	資料は用意していない。(補助金の概要を説明)
佐々木委員	回数券販売促進事業補助金で、回数券を売った分だけ補助金を支払うとのことだが、その補助金は売上収入になるのか。補助金に入るのか。補助金に計上される。
池係長	
佐々木委員	入湯税は温泉事業の収入に含まれないのか。
池係長	日帰り入浴は課税免除しているため収入に計上していない。
佐々木委員	ビューさわたのコスト計算書を見ると、令和元年の委託費は何に使っているのか。またクアテルメ佐渡の需用費が平成30年度から令和元年度に急増しているが何か事情があったのか。
池係長	ビューさわたの委託費は日常の清掃作業が主。クアテルメ佐渡の需用費は修繕料が増えたため。
西川委員長	4p. で「1施設あたりの指定管理料～集会機能など複合的な施設機能を持つ。」とあるが、指定管理料に入浴機能だけでなく集会機能も含めて指定管理しているという認識で良いか。
池係長	その通り。
佐々木委員	佐渡市は水道料の公衆浴場用の特別料金について検討はしたか。
池係長	検討の結果、佐渡市は導入しないことになったと聞いている。これは水道会計の財源に対する考え方によるもの。入浴施設はたくさん水を使うため水道事業にとって大きな収入源となる。その収入が減ると一般の水道料金に影響する。
佐々木委員	入浴施設が経営赤字で、市が赤字補填しても水道料を払い続けてもらったほうが、市の収入としてトータルで得なのか？
池係長	もともと佐渡市の水道にかかるコストは、徴収する水道料金の3倍近

	い。これ以上水道料金を値上げできない以上、収入を減らしたくない。公衆浴場の水道料金を安くしている他市町村は温泉事業が観光資源になっているため政策的配慮を行っている。佐渡は温泉で儲けられる状況にない。
佐々木委員	あり方で考えた場合、佐渡市全体の収益で考えるべきと考えたが、入浴施設を1つ減らすと得られる水道収入も減少する問題が起きてしまうとなれば、コストバランスを加味しないといけなくなる。
西川委員長	本来であればコスト計算書にこうした事情や減価償却なども盛り込むべき。水道料金の件も確かに考慮すべきと思う。
佐々木委員	入浴施設を減らして水道料金収入が減り、結果佐渡市民の水道料金が値上げされてしまうのでは本末転倒。存続することで市の収入が増えるのなら水道料金と関連した検討も必要と考える。
池係長	上下水道課も将来の水道事業について構想していると思う。水道料金の件は入浴施設とは切り分けて考えたい。
佐々木委員	水道料金が運営者にとって重大なコストになっていたらこれを相殺することで存続の可能性が見えると思った。検討会ではコストというより目的の話に進んだ方がいいのかもしれない。
山下委員	そもそもこの入浴施設あり方検討会のゴールが見えない。どこを目指しているのか。きちんと目的に沿った施設運用が出来ているのか。そもそも経営の話をするなら存続は難しいと思うが、例え赤字でも行政が予算を出して存続すべき大義名分があるのなら施設は必要だろう。入浴施設の目的や意義は話し合えないのか。
池係長	佐渡市の都合で順番が逆になってしまった。目的・意義の話は今後の検討会で話し合いたい。
西川委員長	現状、今の入浴施設をどう総括するのかが問題と捉えている。大きな課題が維持管理コストなのだと認識している。ひとまずは中間報告に集中した議論にしたい。
南島委員	温泉そのもののあり方、水道料金、入湯税、指定管理者制度と無償貸付といった問題の切り分け方が複合的過ぎるため整理が困難になっている。水道料金に関する話も別途上下水道課の方を呼ぶなどして検討が必要な話と考える。 今日の段階では、差し迫った問題として11月に迫った無償貸付契約を延長するかどうかに集中して結論を出すべき。
西川委員長	11月中に施設の貸付契約延長回答期限が迫っている。しかし今の状態では委員の間で何も共通認識が生まれていない。少なくとも中間報告は、今の段階で共通認識に至ったところだけまとめたい。

池係長	<p>議題 2) 中間報告 (案) について</p> <p>(あり方検討会 (骨子案) を説明) 基本方針について、この 4 項目の内容で良いか。</p>
佐々木委員	<p>基本方針②について、施設が維持困難であることがはっきりしているなら、適正な施設数の目標値を記載してしまっているのでは。事務局は施設を維持できる最低限の予算ラインが決まっていたら教えてほしい。</p>
池係長	<p>適正な施設数は中間報告では書かないでおきたい。仮に 20 年後を見据えれば、利用者数の推定から 1 施設で十分、という結論になってしまう。施設は段階的に絞ったほうが良いと考えている。</p>
佐々木委員	<p>では「段階的に」と付けて目標値を定めたらいいのでは。</p>
橋本委員	<p>検討が進んでいない中でいきなり適正数が〇個とは発表しづらい。今はこの表現のままで良い。</p>
鶴間委員	<p>施設ごとに目標を決めて、次の更新時に達成度を評価するような意見はどうか。</p>
山下委員	<p>基本方針②で「施設を絞る必要がある」とあるが、そもそも赤字だから補助するという現状に違和感がある。佐渡市は入浴施設それぞれに設置目的や設置根拠を持って補助しているのか。無償貸付施設はちゃんと役割を担って補助金をもらっているのか。</p>
池係長	<p>無償貸付施設はそれぞれ健康増進の目的で旧市町村の自治体が運営していたが、現在も市民の健康増進のために佐渡市が入浴施設を支援する形を取っている。今後どの程度まで支援が必要なのかを検討することになる。</p> <p>また、現在正式に運営根拠を定めて運営している施設はビューさわたとサンライズ城が浜の 2 施設のみ。無償貸付 3 施設については、運営する条例上の目的や根拠はもう存在しない。</p>
山下委員	<p>入浴施設には税金が投入されている。税金の使い方としてできるだけ多くの市民が享受できることが望ましく、特定の地域に支援が偏ったりしないよう注意が必要。</p>
池係長	<p>市民が利用しやすい配置にすることは検討重点事項の一つ。施設の無い外海府などは従来から入浴サービスを受けにくい状況なので救済方法も検討したい。</p>

小田委員	基本方針③で「無償貸与を継続する」という内容は県内市町村の方向性と反していないか。指定管理に移行するのが今の流れではないのか。無償貸付の入浴施設を一部指定管理に戻すことも検討している。
池係長	
小田委員	
佐々木委員	では指定管理にすると書いたらいいのでは。このまま現状維持を続けていては何も変わらない。
西川委員長	だからこそはっきりと具体的な数値目標と期限を定めるべき。
佐々木委員	まず基本方針③の3施設の2年間の無償貸与延長、という点について整理したい。現実問題として、年度末に運営事業者との契約期限が近づいている。よって11月までに検討会の意見を述べてほしいと求められている。どういう報告内容にするか、皆さんの意見を集約したい。
西川委員長	意見の方向性は、施設を現状維持するか減らすのかという点だと認識している。契約継続にあたっては「必要性を判断した上で」と追記すべき。
橋本委員	適正な施設数は、そこまで議論が煮詰まっていない。それを言えるだけの論拠を持っていない。一方で何も意見しないことも無責任。何かの方向性を出していきたい。委員に一人ずつ意見を聞きたい。
山下委員	市民に対して納得できる資料を示せていない段階で適正施設数を決めることはできない。今はこの案のまま発表して、延長した2年間で納得してもらえる資料を市民に示すべき。
西川委員長	委員としてこの検討会で何を確認・評価すべきかを把握できていない。基本方針③に関しては橋本委員に同じ。延長した2年間で論拠を固めるべき。しかし次のステップで検討するにあたって自分の領域で判断できる要素がまだ示されていない。水道料金や予算の話も検討すべきだが資料が不足している。また入浴施設の意義や価値が話し合われないうまま経済的な観点で方針を決めてしまうことに抵抗がある。
鶴間委員	この検討会では市民目線での意見を出し、行政へ答申するだけで、最終的に結論を判断するのは行政。中間報告では現状までで示された情報から委員の意見がまとまることが重要であり、委員がこの場で最終的な判断を持てなくても責任まで負うことは無い。
	子育て中の親からしても温泉は大切なものであり存続して欲しい気持ちがある。収入や売り上げの話は分からないが、2年間で目標を設定し、指定管理にすべき施設があるならその結果を見て判断したい。施設数で考えるよりは佐渡全体で見て利用しやすい施設であることが望ましい。

小田委員	<p>施設数を減らすかどうか以前に、この中間報告には今後の将来に対するビジョンが無い。無償貸付を継続するなら継続すべき理由が必要。健康増進のために入浴が必要なのは分かり切っている。その先10年20年後、人口が減り続ける中で早めに手を打たなければ。現状維持のまま予算を垂れ流し続けることは無駄である。何らかの将来に向けた付帯案を付けたほうがいい。</p>
橋本委員	<p>20年後を想定した答申と、11月に出す中間報告は内容が違うのではないか。</p>
佐々木委員	<p>真野町は合併して温泉を検診センターに譲渡したため、近隣に入浴施設が無い。施設を減らすと周辺住民が困ると言うが、利用度の低い施設から減らしていくのは当然で、島内全体で見れば筋が通らない話。中途半端に維持して全部残すならいっそ特定の施設に集中投資することも有りだと思う。そのためには早めに動かなければいけない。</p>
南島委員	<p>意見を整理すると、「入浴施設の適正数及び配置」については引き続き検討が必要で、未検討の事項に追加すべき。また、行政側の資料として記載してある「現状の入浴施設の全てを、今後においても継続的に維持・運営していくことは相当の財政支出を必要とすることから、残す施設を選択する必要性が強く求められる」の文章は、委員の共通意見として記載してもいいと考える。その上で、残す施設については有効活用策を考え、必要性の検証の中でどのような活用が考えられるか、という流れが最終答申で出てくると良い。</p>
南島委員	<p>また水道料金や入湯税、指定管理者制度の業務は本来温泉施設系の所管ではない。専門的な領域について他部署の担当から話を聞くことも必要。こうした更なる検討の時間をいただくためにひとまず無償貸付を継続する、という整理で良いかと思う。</p>
南島委員	<p>そもそも今の無償貸付施設は、指定管理すべき施設に入らなかったから無償貸付になっている。今の状況から指定管理に戻すことはかなりの努力が必要。指定管理できないので今は相応の額を補助金で施設に支出しているが、補助額が見合わないので複数の補助金を作っている。そうこうしているうちに政策目的が不明瞭化する。これが問題。話すべきは適正配置が優先される。</p>
西川委員長	<p>基本方針③はこのままで出せない。未検討の事項も含めてこの検討会の総合的な課題として今後も検討すべきであることを踏まえ、ひとまず契約を延長するという内容で変えたほうがいい。 基本方針②で適正な施設数をここで決めてしまうことは乱暴だと思</p>

西川委員長	<p>う。南島委員の言ったとおり、4p.最後の段落の文章「現状の入浴施設の全てを、今後においても継続的に維持・運営していくことは相当の財政支出を必要とすることから、残す施設を選択する必要性が強く求められる」を委員の意見として持つてくることが妥当と考える。</p> <p>中間報告は、これまでの話をまとめていただいた上で修正し、改めて皆さんに確認してもらおう。(案)からはもっと分かりやすく変えたほうがよい。</p>
西川委員長 池係長	<p>報告の発表時期はいつくらいか。</p> <p>施設運営者の検討材料にしたいため、なるべく早いほうがいい。10月末か11月上旬。施設運営者は補助金等の条件が変わらなければ継続すると思う。</p>
西川委員長	<p>次回は未検討だった事項を重点的に話し合うことでよいか。あるいは施設運営者から話を聞いてもいいかもしれない。</p>
佐々木委員	<p>議題3) その他 次回の検討会日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月30日(月)午後を候補日とする。 <p>全般的な話として、この検討会で委員が出す意見の方向性は、経営的な観点で話したほうがいいのか、それとも存廃の意見はノータッチで、入浴施設活用のアイデアや要望を出したほうがいいのか。</p>
西川委員長	<p>経営的な話も必要で、アイデアの話にも広げていきたい。今はその段階ではないが、活用策も今後話し合っていきたい。</p>
佐々木委員	<p>これまでに入浴施設の利用者数が減った要因は何か分析・検証を求める。</p>
	<p>3 閉会</p>